

水稻トビイロウンカ防除情報第2号 6月中下旬にも飛来を確認！適期防除を忘れずに！

1 発生状況

府内に設置した予察灯で5月中旬の初誘殺に引き続き、トビイロウンカの誘殺を確認しました。

- (1) 岸和田市に設置した予察灯で、6月19日、21日、22日に各1頭計3頭のトビイロウンカが立て続けに誘殺されました。
- (2) 6月20日から25日の期間における同予察灯のトビイロウンカ誘殺数の平年値は0.3頭であり、今年の誘殺数は平年より多い傾向にあります。
- (3) 近隣県でも同時期に本虫の誘殺が確認されています。
- (4) 近畿地方では、7月に入り梅雨前線が北上するに伴い、トビイロウンカが多飛来する可能性があります。JPP-NET（日本植物防疫協会）のウンカ飛来予測システムによると7月1日～3日にも大阪へ飛来した可能性が示されています。これから梅雨明けまで、断続的にトビイロウンカが飛来する可能性があります。今後の情報に十分に注意して、早め早めに適切な防除対策を行うことが重要です。

2 防除対策

◆病害虫防除グループホームページにて

トビイロウンカの生態や防除を解説した**防除マニュアル「水稻 トビイロウンカの防除」**および**「令和3年版大阪府病害虫防除指針」**を公開しています。併せてご参照ください。
<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>

- (1) JPP-NETの有効積算温度計算シミュレーションによると、今回の6月20日頃飛来したトビイロウンカの防除適期となる第1世代若齢幼虫期は、7月上中旬と推定されます。また、7月1日頃飛来したトビイロウンカについては、防除適期は7月中下旬と推定されます。
- (2) トビイロウンカの防除には、まず、自分の水田でのトビイロウンカの発生状況の把握が重要です。大陸から飛来した飛来世代は極めて少ない数ですので見つけるのは難しいですが、第1世代、第2世代と世代を重ねるにつれ急速に個体数が増加してきます。しっかり見回りをしてトビイロウンカを監視しましょう。
- (3) 薬剤防除は移植時の箱施用と本田防除の組み合わせが基本です。
移植に際してトリフルメゾピリム、フルピリミン等の新規成分含有の箱施用剤を施用した水田で

は、2ヶ月程度は残効があるため、第1世代幼虫を防除できると考えられますが、これら新規成分を含む箱施用剤を使用していない場合は、下表を参考に本田施用剤を防除適期に使用してください。

表 トビイロウンカ本田施用剤（例） ※農薬名が太字の剤はウンカに対する比較的新しい有効成分を含む

農 薬 名	使用時期	成分数	トビイロウンカに対する有効成分（IRACコード）
エクシード粉剤DL	収穫7日前まで	1	スルホキサフロル（4C）
エクシードフロアブル	収穫7日前まで	1	スルホキサフロル（4C）
エミリアフロアブル	収穫7日前まで	1	フルピリミン（4F）
スタークル(アルバリン)粒剤	収穫7日前まで	1	ジノテフラン（4A）
スタークル豆つぶ	収穫7日前まで	1	ジノテフラン（4A）
スタークル(アルバリン)粉剤DL	収穫7日前まで	1	ジノテフラン（4A）
トレボン粉剤DL	収穫7日前まで	1	エトフェンプロックス（3A）
パダントレボン粒剤L	収穫30日前まで	2	エトフェンプロックス（3A）
パダンバッサ粒剤	収穫30日前まで	2	BPMC（1A）

（令和3年6月現在）

※令和3年6月現在、ウンカに対する比較的新しい有効成分を含む本田施用**粒剤**はありません。粒剤しか使用できない場合は、スタークル（アルバリン）粒剤・豆つぶ等を使用してください。

農薬はラベルをよく読んで、登録の有無、施用量や使用時期等を確認の上使用してください。

3 その他

◆病害虫防除グループホームページ
<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>

◆農薬の最新登録情報は、農林水産省の農薬登録情報提供システムで確認してください。
<https://pesticide.maff.go.jp/>